

HAIR GROWER CONTAINING PLANT EXTRACT

Publication number: JP2000344632

Publication date: 2000-12-12

Inventor: TOMONO NORIHIRO; TANAKA KIYOTAKA; ANDO YOSHIHIKO

Applicant: ICHIMARU PHARCOS INC

Classification:

- International: A61K8/00; A61K8/97; A61K36/00; A61K36/07; A61K36/18; A61K36/25; A61K36/28; A61K36/53; A61K36/73; A61K36/896; A61P17/14; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q7/00; A61K8/00; A61K8/96; A61K36/00; A61K36/06; A61K36/18; A61K36/185; A61K36/88; A61P17/00; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q7/00; (IPC1-7): A61K7/06; A61K35/78; A61K35/84; A61P17/14

- European:

Application number: JP19990159173 19990607

Priority number(s): JP19990159173 19990607

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2000344632

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a new and safe hair grower from a planet. **SOLUTION:** This hair grower comprises the extract of *Lindera strychnifolia* (Sieb. et Zucc.) F.Vill. [=Benzoin strychnifolium (Sieb. et Zucc.) O.Kuntze] or the combination of the extract of *Lindera strychnifolia* (Sieb. et Zucc.) F.Vill. [=Benzoin strychnifolium (Sieb. et Zucc.) O.Kuntza] with the extract of one or more plants selected from *Aloe barbadensis* Mill. (=*Aloe barbadensis* Mill. (=*Aloe Vera* L.)), *Rabdosia faponicus* (Burm. f.) Hara (=*Isodon japonicus* Hara) or *Isodon trichocarpous* Kubo, *Scutellatia baicalensis* Geogi, *Panax ginseng* C.A.Mey. (=*Panax schinseng* Nees), *Hypericum erectum* Thunb., *Magnolia obocata* Thunberg, *Symphytum officinale* Linne, *Prunus speciosa*, *Salvia officinalis* L., *Perilla frutescens* Britton var. *acuta* Kudo, *Paeonia lactiflora* Pallas (=*Paeonia albiflora* Pallas), *Stevia rebaudiana* Bertoni, *Ophelia japonica* (Schult.) Griseb. (=*Gentiana japonica* Schult.) (= *Swertia japonica* (Schult.), *Pinellia ternata* Breitenbach, *Belamcanda chinensis*(L.) De., *Poria cocos* Wolf, *Tilia platyphyllos* Scop., and *Paeonia moutan* Sims (=*Paeonia suffruticosa* Andrews). The hair grower has an excellent hair-growing effect, gives good gloss, tension and lubricity to hair, improves the combinability of the hair, and is safe for persons and animals. The extracts may also be used for other general foods and drinks.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-344632

(P2000-344632A)

(43)公開日 平成12年12月12日 (2000.12.12)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
A 61 K 7/06		A 61 K 7/06	4 C 0 8 3
35/78		35/78	C 4 C 0 8 8
			H
			M
			Q

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 24 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平11-159173

(22)出願日 平成11年6月7日(1999.6.7)

(71)出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

(72)発明者 伴野 規博

岐阜県岐阜市西島町7番10号

(72)発明者 田中 清隆

岐阜県岐阜市小野497

(72)発明者 安藤 芳彦

岐阜県本巣郡穂積本田1058番地の1

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 植物抽出物含有養毛・育毛剤

(57)【要約】

【課題】新規で安全な植物からの養毛・育毛剤を提供することを課題とする。

【解決手段】本発明のウヤク抽出物、又は、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を併用した養毛・育毛剤を提供するものである。

【効果】優れた発毛・育毛効果を有し、又、毛髪にツヤ・張り・滑らかさを与え、くし通りも良くなり、人又は動物に対しても安全である。尚、その他、一般的な飲食品類への使用も可能である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】ウヤク抽出物を含有することを特徴とする養毛・育毛剤。

【請求項2】ウヤク抽出物及びアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とする養毛・育毛剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ウヤク抽出物、又は、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を併用することにより毛の再生が有意に認められる、新規で且つ安全な養毛・育毛剤に関するものである。

【0002】その利用分野は、例えば、各種の外用製剤類（動物用に使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、アンプル、カプセル、丸剤、錠剤、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル又は気泡の1)医薬品類、2)医薬部外品類、3)局所用又は全身用の皮膚用化粧品類、4)頭皮・頭髪に適用する薬用又は／及び化粧用の製剤類（例えば、シャンプー剤、リンス剤、トリートメント剤、パーマネント液、染毛料、整髪料、ヘアトニック剤、育毛・養毛料など）が挙げられる。

【0003】

【従来の技術】毛髪は容姿を大きく左右し、美容上非常に重要な位置を占めている。脱毛症は今だに的確な治療法がなく、深い悩みの種となっている。尚、脱毛症には先天性と後天性のものがあるが、その発症原因、発生機序とも多くの研究がなされているが、不明な点が多く、今日でも養毛・育毛剤は非常に多く市場に出ているのが現状である。

【0004】現在、脱毛の原因として考えられているものは、内分泌系異常、ヘアサイクル異常、自律神経の失调、栄養障害、その他、遺伝性・老化によるものが挙げられている。又、従来の養毛・育毛成分としては、例えば、リノール酸モノグリセリド（特開昭63-201114号）、卵胞ホルモン（特開昭60-38313号）等のホルモン類、又、ビタミンE、B2、B6、ビオチン、パントテン酸などのビタミン類、その他、アミノ酸類（ペプチドサブスタンス：特開昭61-7209号）や既存の末梢血行促進剤（ビタミンE及びその誘導体、ニンニクエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジルなど）、局所刺激剤（トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、ショウキョウチンキ、ハッカ油、ニコチン酸ベンジルなど）、消炎剤（グリチル

リチン酸、甘草エキス、塩酸ジフェンヒドラミンなど）が知られている。

【0005】そして、前記の養毛・育毛成分を単独又は複数組み合わせて効果を期待して使用し、養毛・育毛、発毛促進、フケ、カユミ、炎症の防止、薄毛・脱毛予防などの総合的な養毛・育毛効果を狙っているものが多い。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上記の通り、頭皮・皮膚の毛髪を成長又は維持させる目的で用いられる養毛・育毛剤については、種々の成分・技術が提案され、現在も実際に利用されている。しかしながら、それらの養毛・育毛剤は効果が必ずしも十分ではなく、皮膚刺激を起こすなど安全性の面で満足すべきものではなかった。

【0007】そこで、最近注目されているものに、ヘアサイクルの休止期を成長期に変換させる作用に着目し、その作用成分を養毛・育毛剤として利用する試みが行われている。尚、休止から成長期への変換作用が養毛・育毛として利用される理由は、脱毛症の人は、毛の成長過程の休止期毛が頭皮・頭髪を占める割合が大きいと考えられており、そこで、毛のヘアサイクルに着目、休止期となった毛根を刺激し、成長期へと移行を速めるのに有効な成分の養毛・育毛剤の検討・追求し、鋭意研究を進めてきた。

【0008】

【課題を解決するための手段】こうした事情に鑑み、本発明者らは養毛・育毛効果がある有用な植物を開発のテーマとし、その結果、ウヤク抽出物、又は、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を併用することにより毛の再生が有意に認められ、養毛・育毛作用を有することを確認した。又、毛髪に対して、ツヤ・張り・滑らかさを与え、くし通りも良くなる安全性の高い養毛・育毛剤を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0009】

【発明の実施の形態】尚、本発明で使用する「ウヤク：烏薬、天台烏薬」とは、クスノキ科(Lauraceae)、クロモジ属(Lindera)の植物：テンダイウヤク「*Lindera strychnifolia*(Sieb.et Zucc.)F.Vill. (=*Benzoin strychni folium*(Sieb.et Zucc.)O.Kuntze)」の根茎又は根皮、根を用いる。

【0010】又、「アロエベラ」とは、ユリ科(Liliaceae)アロエ属(Aloe)の植物アロエベラ「*Aloe barbadensis* Mill. (=*Aloe Vera* L.)及びその変種(*Aloe Vera* L. var.*chinensis* (Haw.)Berger)、(*Aloe saponaria* Haw.)の葉又は茎から得られるものを用いるが、その他、同属種

のキダチアロエ(*Aloe arborescens* Mill.)、ソコトラアロエ(*Aloe perryi* Baker)、ナタールアロエ(*Aloe bainesii* Th.Dyer)、アロエディコトマ(*Aloe dichotoma* L.)、アロエマルロティイ(*Aloe marlothii* Berger)、アロエルペストリス(*Aloe rupestris* Baker)、アロエスピノシシマ(*Aloe spinosissima* Hort.)、アロエプリカティリス(*Aloe plicatilis* Mill.)、アロエアスペリフォリア(*Aloe asperifolia* A.Berger)、アロエカピタータキボリニコーラ(*Aloe captata* Bak.var.*cipolinicola* H.Perr.)、アロエスプレンデンス(*Aloe splendens* Lavranos)、アロエフミリス(*Aloe humilis* Mill.)、アロエミトリファルミス(*Aloe mitriformis* Mill.)、アロエウェリエガータ(*Aloe variegata* L.)、ケープアロエ(*Aloe ferox* Mill.)、アロエアフリカーナ(*Aloe africana* Mill.)、アロエスピカータ(*Aloe spicata* Baker)、(*Aloe haworthioides* Baker)、(*Aloe succotrina* Lam.,)など、アロエ属の葉又は茎を用いることもできる。

【0011】「エンメイソウ：延命草」とは、シソ科(Labiatae)、ヤマハッカ属(*Rabdosia*)の植物ヒキオコシ「*Rabdosia japonicus* (Burm.f.) Hara(=*Isodon japonicus* Hara)」又はクロバナヒキオコシ(*Isodon trichocarpus* Kubo)の地上部又は全草を用いる。

【0012】「オウゴン：黄ゴン」とは、シソ科(Labiatae)、タツナミソウ属(*Scutellaria*)の植物コガネバナ(*Scutellaria baicalensis* Geoegi)の周皮を除いた根を用いる。

【0013】「オタネニンジン：朝鮮人参」とは、ウコギ科(Araliaceae)、トチバニンジン属(*Panax* L.)の植物チョウセンニンジン「*Panax ginseng* C.A.Mey.(=*Panax schinseng* Nees)」「別名：オタネニンジン」の根を用いる。

【0014】「オトギリソウ」とは、オトギリソウ科(Guttiferae)、オトギリソウ属(*Hypericum*)の植物オトギリソウ(*Hypericum erectum* Thunb.)、セイヨウオトギリソウ(*Hypericum perforatum* L.)、コゴメバオトギリソウ(*Hypericum perforatum* L. var *angustifolium* D.C.)の全草を用いる。

【0015】「コウボク：厚朴」とは、モクレン科(Magnolaceae)、モクレン属(*Magnolia*)の植物ホウノキ(*Magnolia obovata* Thunberg)、カラホオ(*Magnolia officinalis* Rehder et Wilsons)、マグノリア・スプレンゲリ(*Magnolia sprengeri* Pamp.)又はその他近縁植物の幹、枝などの樹皮を用いる。

【0016】「コンフリー」とは、ムラサキ科(Boraginaceae)、ヒレハリソウ属(*Sympytum*)の植物コンフリー(*Sympytum officinale* Linne)の葉、枝、茎を用いる。

【0017】「サクラ：桜」とは、バラ科(Roseaceae)、サクラ属(*Prunus*)、サクラ亜属(Subgen. *Cerasus*)の植物オオシマザクラ(*Prunus speciosa*)、ヤマザクラ(*Prunus jamasakura*)、オオヤマザ克拉(*Prunus sargentii*)、エ

ドヒガン(*Prunus spachiana*)、マメザクラ(*Prunus incisa*)、ミヤマザ克拉(*Prunus maximowiczii*)、ソメイヨシノ(*Prunus yedoensis*)、タカネザ克拉(*Prunus nipponica*)、カスミザ克拉(*Prunus leveilleana*)、チョウジザ克拉(*Prunus apetala*)、コヒガン(*Prunus subhirtella*)、サトザ克拉(*Prunus lannesiana*)、カンザ克拉(*Prunus kanzakura*)などのサクラ類の葉を用いる。

【0018】「サルビア」とは、シソ科(Labiatae)、アキギリ属(*Salvia*)の植物サルビア(*Salvia officinalis* L.)「別名：セージ」の花、葉、全草を用いる。

【0019】「シソ：紫蘇」とは、シソ科(Labiatae)、シソ属(*Perilla*)の植物シソ(*Perilla frutescens* Britton var. *acuta* Kudo)又はその他近縁植物の葉、枝先を用いる。

【0020】「シャクヤク：芍薬」とは、ボタン科(Paeoniaceae)、ボタン属(*Paeonia*)の植物、シャクヤク「*Paeonia lactiflora* Pallas(=*Paeonia albiflora* Pall.)」又はその他近縁植物の根を用いる。

【0021】「ステビア」とは、キク科(Compositae)、ステビア属(*Stevia*)の植物ステビア(*Stevia rebaudiana* Bertoni)の葉、枝先を用いる。

【0022】「センブリ：当薬」とは、リンドウ科(Gutianaceae)、センブリ属(*Ophelia*)の植物センブリ「*Ophelia japonica* (Schult.) Griseb. (=*Gentiana japonica* Schult.)(=*Swertia japonica* (Schult.))」の全草を用いる。

【0023】「ハンゲ：半夏」とは、サトイモ科(Araceae)、ハンゲ属(*Pinellia*)の植物カラスビシャク(*Pinellia ternata* Breitenbach)の根茎、塊茎を用いる。

【0024】「ヒオウギ：射干」とは、アヤメ科(Iridaceae)、ヒオウギ属(*Belamcanda* Adans.)の植物ヒオウギ(*Belamcanda chinensis*(L.) De.)の根茎を用いる。

【0025】「ブクリヨウ：茯苓」とは、サルノコシカケ科(Polyporaceae)、アナタケ属(*Poria*)の植物マツホド(*Poria cocos* Wolf)の菌核で、通例外層をほとんど除いたものを用いる。

【0026】「ボダイジュ：菩醍樹」とは、シナノキ科(Tiliaceae)、シナノキ属(*Tilia*)の植物ナツボダイジュ(*Tilia platyphyllos* Scop.)、フユボダイジュ(*Tilia cordata* Mill.)、セイヨウシナノキ(*Tilia europaea* L.)、又はその他の近縁植物の花、果実、樹皮を用いる。

【0027】「ボタンピ：牡丹皮」とは、ボタン科(Paeoniaceae)、ボタン属(*Paeonia*)の植物、ボタン「*Paeonia moutan* Sims(=*Paeonia suffruticosa* Andrews)」の根皮を用いる。

【0028】

【発明の実施の形態】本発明で使用するウヤク、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、

シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの抽出物とは、各々の植物体の各種部位（全草、地上部、花、果実、葉、枝、幹、茎、樹皮、根茎、根皮、根茎、塊茎、根、菌核など）をそのまま或いは粉碎後搾取したもの。又は、そのまま或いは粉碎後、溶媒で抽出したものである。

【0029】植物抽出物の抽出溶媒としては、水、アルコール類（例えば、メタノール、無水エタノール、エタノールなどの低級アルコール、或いはプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの多価アルコール）、アセトンなどのケトン類、エチルエーテル、ジオキサン、アセトニトリル、酢酸エチルエステルなどのエステル類、キシレン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒を、単独或いは2種類以上を任意に組み合わせて使用することができ、又、各々の溶媒抽出物が組み合わされた状態でも使用できる。

【0030】又、ウヤク、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの各種植物抽出物は応用する養毛・育毛剤の剤型・形態により乾燥、濃縮、或いは希釈などを任意に行い調整すれば良い。

【0031】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は沪過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態で利用できるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色などの精製処理を加えても良く、脱臭・脱色などの精製処理手段としては、活性炭カラムなどを用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。

【0032】本発明のウヤクの抽出物は、養毛・育毛剤へ含有できるが、その含有量としては特に規定するものではないが、養毛・育毛剤の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なるが、通常、0.5重量%以上（以下、重量%で表わす）好ましくは5～99%が良い。尚、含有量が0.5%より少ないと効果が充分期待できない。

【0033】又、同様に本発明のアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの各種植物抽出物についても、養毛・育毛剤へ含有できるが、その含有量としては特に規定するものではないが、養毛・育毛剤の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なるが、通常、0.5重量%以上（以下、重量%で表わす）好ましく

は5～50%が良い。尚、含有量が0.5%より少ないと効果が充分期待できない。

【0034】尚、本発明の養毛・育毛剤は、前記の必須物質に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができる。

【0035】(1)各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファー油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、ククイナッツ油、サフラワー油、シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシック油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、バーム油、バーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）など。

【0036】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス、スクワレン、スクワラン、プリスタンなど。

【0037】(3)鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックスなど。

【0038】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸などの天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸などの合成脂肪酸。

【0039】(5)アルコール類

エタノール、イソピロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロールなどの天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノールなどの合成アルコール。

【0040】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ペンタエリトリトール、ソルビトール、マンニトールなど。

【0041】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピ

ル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリストル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリストル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコールなど。

【0042】(8) 金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛など。

【0043】(9) ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物
アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トレハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキサイドなどのアルキレン(C2~C4)オキサイドが付加されたヒドロキシアルキル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルビロリドン、ポリビニルメタクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエレンオキサイドやポリプロピレンオキサイドなどのポリアルキレンオキサイド又はその架橋重合物、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミンなど。

【0044】(10) 界面活性剤

アニオン界面活性剤（アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩）、カチオン界面活性剤（アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩）、両性界面活性剤：カルボン酸型両性界面活性剤（アミノ型、ベタイン型）、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤（エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含蜜素型非イオン界面活性剤）、その他の界面活性剤（天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、

フッ化炭素系界面活性剤）など。

【0045】(11) 各種ビタミン類

ビタミンA群：レチノール、レチナール（ビタミンA1）、デヒドロレチナール（ビタミンA2）、カロチン、リコピン（プロビタミンA）、ビタミンB群：チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩（ビタミンB1）、リボフラビン（ビタミンB2）、ピリドキシン（ビタミンB6）、シアノコバラミン（ビタミンB12）、葉酸類、ニコチニ酸類、パントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群：ビタミンC酸又はその誘導体、ビタミンD群：エルゴカルシフェロール（ビタミンD2）、コレカルシフェロール（ビタミンD3）、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群：ビタミンE又はその誘導体、ユビキノン類、ビタミンK群：フィトナジオン（ビタミンK1）、メナキノン（ビタミンK2）、メナジオン（ビタミンK3）、メナジオール（ビタミンK4）、その他、必須脂肪酸（ビタミンF）、カルニチン、フェルラ酸、アーオリザノール、オロット酸、ビタミンP類（ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン）、ビタミンUなど。

【0046】(12) 各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジンなどや、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体など。

【0047】(13) 植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工（例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醸酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色などを任意に選択、組合せた処理）を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0048】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、水溶性有機溶媒（例えば、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなど）の中から選ばれる1種もしくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したものでも良い。

【0049】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮

膚や頭髪の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活（細胞老化防止）、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果などの美容的効果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝などの効果も期待できる。

【0050】原料とする具体的な植物（生薬）としては、例えば、アーモンド（へん桃）、アイ（藍葉）、アオカズラ（清風藤）、アオキ（青木）、アオギリ又はケナシアオギリ（梧桐）、アオツヅラフジ（木防巳）、アカシア、アカショウマ（赤升麻）、アカスグリ「果実」、アカブドウ、アカミノキ（ログウッド）、アカメガシワ（赤芽柏）、アカネ（茜草根）、アカヤジオウ又はジオウ（地黄）、アギ（阿魏）、アキニレ（榔榆皮）、アグアヘ（オオミテングヤシ）、アケビ（木通）、アサ（麻子仁）、マルバアサガオ又はアサガオ（牽牛子）、アジサイ（紫陽花）、アシタバ（明日葉）、アズキ（赤小豆）、アセロラ、アセンヤク（阿仙薬）、アチラ（ショクヨウカンナ）、アニス、アベマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ（甘茶）、アマチャヅル、アマドコロ（玉竹）、アマナ（光慈姑）、アマランサス（ヒユ、ハゲイトウ、ヒモゲイトウ、センニンコク、スキモリゲイトウ、ホソアオゲイトウ、アオゲイトウ、ハリビュ、アマラントウス・ヒポコンドリアクス）、アミガサユリ又はバイモ（貝母）、アルガローボ（キャベ）、アルテア、アルニカ、アルピニア又はカツマダイ（ソウズク）、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ（杏仁）、アンソッコウ（安息香）、イガコウゾリナ（地胆頭）、イカリソウ又はヤチマタイカリソウ（インヨウカク）、イグサ（灯心草）、イタドリ（虎杖根）、イチイ（一位）、イチゴ、イチジク（無花果「果実、葉」）、イチハツ（一初）、イチビ（冬葵子）、イチヤクソウ（一薬草）、イチョウ（銀杏「種子、葉」）、イトヒメハギ（遠志）、イナゴマメ、イヌナズナ（ティレキシ）、イヌビュ（ホナガイヌビュ）、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキジャコウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ（岩菖蒲）、イワヒバ又はイワマツ（巻柏）、ウーロン茶、ウイキョウ（茴香）、ウィート（チブサノキ）、ウキヤガラ（三稜）、ウグイスカグラ「果実」、ヒメウイキョウ、ウコン（鬱金）、ウキクサ（浮萍）、ウスバサイシン又はケイリンサイシン又はオウシュウサイシン（細辛）、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウツボグサ（夏枯草）、ウド又はシシウド（羌活、独活、唐独活）、ウニャデガト（ウンカリア、キャツクロー）、ウバ茶、ウメ（烏梅「種子、果肉」）、ウラジロガシ、ウワウルシ（クサコケモモ）、ウンシュウミカン（陳皮）、エストラゴン、エゾウコギ（蝦夷五加）、エチナシ（ホソバムラサキバレンギク）、エニシダ、エノキタケ（榎茸）、エビスグサ又はカッシア・トーラ（決明子）、エルカンプレ、エルダーベリー「果実」、エレミ、エリンギ又はフレロータスエリンジ、

エンジュ（槐花、槐花米）、オウギ又はキバナオウギ（黄耆）、オウレン（黄連）、オオカラスウリ（カロコン）、オオグルマ（土木香）、オオツヅラフジ（防己）、オオバコ（車前子、車前草）、オオハシバミ（棟子）、オオバナオケラ又はオケラ（白朮）、オオバナサルスペリ（バナバ）、オオバヤシャブシ「果実」、オオミサンザシ又はサンザシ（山査子）、オウセイ（ナルコユリ、カギクルマバナルコユリ）、オウヒササノユキ又はササノユキ、オオムギ（大麦）、オオホシグサ（穀精草）、オカ、オカゼリ（蛇床子）、オグルマ（旋覆）、オクラ「果実」、トチバニンジン（人参）、オドリコソウ（続断）、オナモミ（蒼耳子）、オニグルミ、オニドコロ又はトコロ又はナガドコロ（ヒカイ）、オニノヤガラ（天麻）、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ（百合）、オノニス、オヒヨウ（裂葉榆）、オミナエシ（敗醬）、オユーコ、オランダカラシ（クレソン）、オランダゼリ、オランダミツバ、オリーブ「果実、種子、葉」、オレガノ、オレンジ「果実、果皮」、カイケイジオウ（熟地黄）、カカオ「果実、果皮、種子」、カキ（柿蒂「葉」）、カギカズラ（釣藤鈎）、カキドオシ又はカントリソウ（蓮錢草）、カシア、カジノキ（楮実「果実」）、ガジュツ（蕪朮）、カシワ（槲樹、槲葉）、カスカリラ、カスカラサグラダ、カニクサ（金沙藤）、カニーワ、カノコソウ（吉草根）、カバノキ又はシダレカンバ（白樺）、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサンショウ（蜀椒）、ガマ（蒲黃）、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ（通草）、カムカム（カモカモ）、カラスウリ又はシナカラスウリ（王瓜）、カラスマギ、ガラナ「種子」、カラヤ、カリン（木瓜）、ガルシニア、カワミドリ、カワラサイコ（委陵菜、翻白草）、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ（石竹）又はエゾカワラナデシコ（瞿麦、瞿麦子）、カワラニンジン（青蒿）、カワラヨモギ（齒チン蒿）、カンスイ（甘遂）、カンゾウ（甘草）、カントラアサ、カンデリラ、カントウ、カンナ、キイチゴ（エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ、ヨーロッパキイチゴ）、キウイ「果実、葉」、キカラスウリ（瓜呂根）、キキョウ（桔梗、桔梗根）、キク（菊花、シマカンギク、チョウセイノギク）、キササゲ（梓実）、ギシキシ（羊蹄根）、キジツ（枳実）、キズタ、キダチハッカ、キナ、キナノキ（シンコーナ、アカキナノキ）、キヌア（キノア）、キハダ（黄柏）、ギムネマ・シルベスター、キャベツ、キャベブ「未熟果」、キュウリ、ギヨリュウ（西河柳、てい柳）、キラジャ・サボナリア、キラヤ、キランソウ（金瘡小草）、キンカン「果実」、キンマ、キンミズヒキ（仙鶴草）、グアバ「果実」、グアユーレ、クエルクス・インフェクトリア（没食子）、ククイナツ、クコ（枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮）、クサスギカズラ（天門冬）、クズ（葛根）、クスノキ、グースベリー「果実」、クソニンジン（黄花蒿）、クチナシ（山梔子）、クヌギ（樸ソウ）、クプアス、クマザサ、クマツヅラ（馬鞭草）、クララ（苦參）、クラン

ベリー「果実」、クリ「種子、果実、渋皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果実」、グレープフルーツ「果実・葉」、クロウメモドキ、クロガネモチ(救必応)、クローブ(丁子、丁香)、グンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(荊芥、荊芥穂)、ケイトウ(鶴冠花、鶴冠子)、ゲッケイジュ(月桂樹)、ケナシサルトリイバラ(土茯苓、山帰来)、ゲンチアナ、ゲンノショウコ(老鸕草)、ケンボナシ(キグシ)、コウキセック、キシュウミカン(コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フクレミカン、サガミコウジ、ポンカン、サンタラ(橘皮))、コウシンバラ(月季花)、コウスイハッカ、コウゾ「果実」、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川骨)、コウホン(藁本、唐藁本)、コウリヤン、コウリョウキヨウ(高良姜)、コエンドロ「果実」、コオウレン(胡黄連)、コケモモ(越橘)、ココヤシ「果実」、ゴシュユ(吳茱萸)、ゴショイチゴ(覆盆子)、コショウ(胡椒)、コパイババルサム、コーヒー「種子、葉」、コブシ又はモクレン(辛夷)、ゴボウ(牛蒡、牛蒡子)、コボタンヅル、ゴマ(胡麻)、ゴマノハグサ(玄参)、ゴミシ(五味子)、サネカズラ又はビナンカズラ又はマツブサ、コムギ(小麦)、米又は米糠「赤糠、白糠」、コメ油、コーラ・アクミナタ「種子」、コーラ・ベラ「種子」、コロハ「果実」、コロンボ、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、サイザル(サイザルアサ)、サキシマボタンヅル又はシナボタンヅル又はシナセンニンソウ(威靈仙)、サクラ(オオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タカネザクラ、カスミザクラ、チョウジザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「花、果実、樹皮(桜皮)」)、サクランボ、ザクロ、ササ、サザンカ、サジオモダカ(沢瀉)、サツマイモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ(酸棗仁)、サフラン(番紅花、西紅花)、ザボン「果実」、サボンソウ、サーモンベリー「果実」、サラシナショウマ(升麻)、サワギキョウ(山梗菜)、サワグルミ(山胡桃)、サングレデグラード(クロトン)、サンシクヨウソウ、サンシチニンジン(三七人参)、サンシュユ(山茱萸)、サンショウ(山椒)、サンズコン(山豆根)、シア(カリテ)、シアノキ「果実」、シイタケ(椎茸)、シオン(紫苑)、ジキタリス、シクンシ(使君子)、シソ又はアオジソ又はチリメンジソ又はカタメンジソ(紫蘇子)、シタン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョウ(連翹)、シメジ(ヒンシメジ、シャカシメジ、ハタケシメジ、オシロイシメジ、ブナシメジ、ホンジメシ、シロタモギタケ)、シモツケソウ、ジャガイモ、シャジン(沙参)、ジャスミン(マツリカ)、ジャノヒゲ(麦門冬)、シュクシャミツ(砂仁、縮砂)、ジュズダマ、シユロ「果実」、ショウガ(生姜)、ジョウザンアジサイ(常山)、ショウブ(菖蒲、菖蒲根)、ショズク「果実」、シラカシ「種子」、シロゴチョウ「種子」、シロトウアズキ(鶏骨草)、シロバナイリス(ニオイイリス)、シロバナツタ

「花」、シロミナンテン(南天実)、シンコナサクシルブラ、ジンチョウゲ(瑞香、瑞香花、沈丁花)、シンナモン、スイカ(西瓜)、スイカズラ(金銀花、忍冬)、スイバ(酸模)、スイムベリー「果実」、ストロベリー「果実」、スズサイコ(徐長卿)、スギナ(問荆)、スペリヒュ(馬歯けん、馬歯けん子)、スマモ「果実」、セイヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウタンボポ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウナシ「果実」、セイヨウナツユキソウ、セイヨウニワトコ(エルダー)、セイヨウネズ(ジュニパー、杜松)、セイヨウノコギリソウ(ミルフォイル)、セイヨウバラ、セイヨウウチヨウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッカ又はセイヨウヤマハッカ、セイヨウワサビ、セキショウ(石菖根)、セッコク(石斛)、セドロン(ボウシュウボク)、ゼニアオイ、ヒロハセネガ、セネガ、セリ、セロリ、センキュウ(川キュウ)、センシンレン(穿心連)、センダン、センナ「果実、葉」、センニンソウ(大蔴)、ソウカ(草果)、ソバ「種実」、ソメモノイモ、ダイオウ(大黃)、大根、大豆、ダイダイ(橙皮、枳実)、タカサプロウ(旱蓮草)、タカトウダイ(大戟)、タカワラビ(狗脊)、ダークスィートチェリー「果実」、タチアオイ、タチジヤコウソウ(タイム、百里香)、タチドコロ(ヒカイ)、タチヤナギ、タマリンド「種子」、タマネギ、タムシバ(辛夷)、タラノキ「果実、葉、根皮」、タルウィ、タンジン(丹参)、タンポポ(蒲公英)又はシロバナタンポポ又はモウコタンポポ、ダンマル、チェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、チクセツニンジン(竹節人参)、チコリ、チャンカピエドラ(キダチコミカンソウ)、チョウセンダイオウ(大黃)、チョウセンニレ(蕪夷)、チョウセンヨモギ(艾葉)、チョレイマイタケ(猪苓)、ツキミソウ、ツクリタケ(マッシュルーム)、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ(漆姑草)、ツユクサ(鴨跖草)、ツルアズキ(赤小豆)、ツルドクダミ(何首烏)、ツルナ(蕃杏)、ツルニンジン(四葉参)、ツワブキ、ディコ、テウチグルミ、デュベリー「果実」、テングサ、テンチャ(甜茶)、トウガ(冬瓜子)、トウカギカズラ、トウガラシ(番椒)、トウキ(当帰)、トウキンセンカ(マリーゴールド)、トウナベナ(川断)、トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南蛮毛)、トウネズミモチ(女貞子)、トウリンドウ又はチョウセンリンドウ(竜胆)、トクサ(木贼)、ドクダミ(十葉)、トコン(吐根)、トシシ又はマメダオシ又はネナシカズラ、トチュウ(杜仲「樹皮、葉、根」)、トネリコ(秦皮)、トマト、トラガント、トリアカンソス「種子」、トルメンチラ、ドロノキ、トロロアオイ、ナイゼリアベリー「果実」、ナガイモ又はヤマノイモ(山藥)、ナギイカダ(ブッチャーブルーム)、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタネ、ナタマメ又はタテハキ(刀豆)、ナツミカン、ナツメ(大棗)、ナニワイバラ(金桜子)、ナベナ(続断)、ナメコ、ナルコユリ(黄精)、ナンキンマメ(落花生)、ナンテ

ン(南天実)、ナンバンカラムシ(苧麻)、ニガキ(苦木)、ニガヨモギ(苦艾)、ニクズク、ケイ又はニッケイ又はセイロンニッケイ又はヤブニッケイ(桂皮)又はケイシ(桂枝)、ニラ(韭菜)、ニワトコ(接骨木「果実、花、茎、葉」)、ニンニク(大蒜)、ヌルデ(五倍子)、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネムリノキ又はジゴクバナ(合歡)、ノアザミ(大薊)、ノイバラ(嘗實)、ノコギリソウ、ノダケ(前胡)、ノバラ、ノモモ、パーム、パイナップル「果実」、ハイビスカス(ブッソウゲ、フウリンブッソウゲ、ローゼル)、ハカマウラボシ(骨碎補)、ハクセン(白癬皮)、ハクルベリー「果実」、ハコベ(繁縷)、ハシバミ(棟子)、ハシリドコロ(ロート根)、バジル、ハス(蓮、蓮肉、蓮子)、パセリ(オランダゼリ)、ハダカムギ、バタタ、ハチク又はマダケ(竹茹)、パチョリー、ハッカ(薄荷、薄荷葉)、ハトムギ(ヨクイニン)、ハナスゲ(知母)、バナナ、ハナハッカ、ハナビシ(シツリシ、シツリ)、バニラビンズ、パパイヤ、ハハコグサ(鼠麴草)、ハハロボボ、ハブ「全草、茎、葉」、パプリカ、ハマゴウ又はミツバハマゴウ(蔓莉子)、ハマスゲ(香附子)、ハマビシ(シツ莉子)、ハマナス(マイカイ花)、ハマボウフウ(浜防風)、ハマメリス、バラ(薔薇)、ハラタケ(ハラタケ、シロオオハラタケ、ウスキモリノカサ)、ハラン、パリエタリア、バルサミーナ(ツルレイシ、ニガウリ)、ハルニレ(榆皮、榆白皮、榆葉)、ハンダイカイ(胖大海)、パンノキ、ヒカゲツルニンジン(党参)、ブーアル茶(普?茶)、ピーカンナッツ、ヒガンバナ(石蒜、蔓珠沙華)、ヒシ(菱実)、ピスタチオ、ピート、ヒトツバ(石葦)、ヒトツバエニシダ、ヒナタイノコズチ(牛膝)、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウズ(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワリハラタケ、ヒロマツタケ)、ピメンタ「果実」、ビヤクシ、ビヤッキュウ、ヒユ「果実」、ビロウドアオイ、ヒロハオキナグサ(白頭翁)、ビワ「果実、葉、茎」、ビンロウ(大服皮、檳榔子)、フウトウカズラ(南簾)、フキ、フキタンボボ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、ブドウ「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フユムシナツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジルニンジン、ブラックカーラント「果実」、ブラックベリー、プラム「果実」、フルセラリア、ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ)、ブルーン、ブロンドサイリウム、ブンドウ(綠豆)、ヘチマ、ベニバナ(紅花)、ヘネケン、ベラドンナ、ベリー「果実」、ベルビアンバーグ、ベンケイソウ又はイキクサ(景天)、ボイセンベリー「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア(地膚子)、ホウセンカ(鳳仙、急性子、透骨草)、ボウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホオズキ(登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ホソバナオケラ(蒼朶)、ホソバノキリンソウ(景天三七)、ホソババレンギク、ボタン(牡丹「花、葉、茎」)、ホップ、ホホバ、ボルドー、ホワートルベ

リー「果実」、ホンオニク(肉じゅ蓉、大芸)、ホンセック(鉄皮石斛、雀山石斛)、マイズルテンナンショウ(天南星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカ、マカデミアナツ、マクリ(海人草)、マグワ(桑白皮「樹皮、葉」)、マシュア(タマノウゼンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタタビ(木天蓼)、マツカサ、松「葉、樹皮、根」、マティコ(コルドンシージョ)、マヨラム(ハナハッカ)、マルバノジャジン(苦參)、マルベリー「果実」、マルメロ、マンゴー、マンゴスチン、マンサニヤ(アンデスカミツレ)、マンシュウグルミ、マンダリン「果実」、マンネンタケ(靈芝)、キジツ(枳実「果実」)、ミシマサイコ(柴胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ(竜舌草)、ミゾカクシ(半邊蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ又はニワヤナギ(篇蓄)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリハッカ、ミモザ、ミョウガ、ミラクルフルーツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムクゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ(延命皮)、ムニヤ、ムラサキ(紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ(紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツフジ(昆明鵝血藤)、メハジキ(益母草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モジエ(コショウボク)、モッコウ(木香)、モミジバダイオウ、モモ(桃「葉、種子、花、果実」)、モヤシ、モレロチェリー「果実」、モロヘイヤ(黄麻)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ(益智)、ヤグルマソウ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤシャブシ(矢車)又はヒメヤシャブシ又はオオバヤシャブシ「果実、果皮、果穗」、ヤチヤナギ、ヤツデ(八角金盤)、ヤドリギ(柳寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチヤナギ、シダレヤナギ)、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリュウヤナギ、ミヤマヤナギ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナギタデ「葉、茎」、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、ヤブタバコ(鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ(商陸)、ヤマハンノキ(山櫟)、ヤマモモ(楊梅皮)、ヤマヨモギ、ユーカリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ(艾葉)、ライガン(雷丸)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア(クラメリア)、ラッキョウ又はエシャロット(薤白)、ラベンダー、リュウガノ(龍眼肉)、リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン)、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ(綠茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバス又はスアビシムス(甜涼)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタス(チシャ)、レッドカーラント「果実」、レモン「果実」、レモングラス、レンギョウ又はシナレンギョウ(連翹)、レンゲソウ、ロウヤシ、ロコン(ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果実」、ローズマリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノバラ)、ワサビ、ワレモコウ(地榆)などが挙げら

れる。

【0051】又、その他の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩（塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど）、海泥又は泥（ファンゴ）類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴなどの各地の海泥又は泥（含有成分：二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水）など。

【0052】海藻類としては、海藻〔緑藻類：クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ビレノイドサ、クロレラ・エリプソイディア、アオノリ（ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ）、海藻〔褐藻類：コンブ（マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ）、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケルプ（マクロシスティス・ピリフェラ、マクロシスティス・インテグリフォリア、ネオシティス・ルエトケアーナ）、ヒジキ、ヒバマタ〕、海藻〔紅藻類：ヒジリメン、マクサ（テングサ）、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタベグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビャクシンキリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ（ヤハズツノマタ）、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、スキノリ、シキンノリ、カイノリ、イボツノマタ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ〕などが代表的なものとして挙げられる。

【0053】又、その他の藻類、例えば、緑藻類（クラミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドゥナリエラ属：ドゥナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッカス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オオヒゲマワリ、ボルボックス、バルメラ属、ヨツメモ属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、フリッヂエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、バロニア属：タマゴバロニア、タマバロニア、マガタマモ属：マガタマモ、イワヅタ属：フサイワヅタ、スリコギヅタ、ヘライワヅタ、クロキヅタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツ

キヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ属：スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属など）。

【0054】藍藻類（スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、イシクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ（スピルリナ）属：スピルリナ、トリコデスマウム（アイアカシオ）属など）。

【0055】褐藻類（ピラエラ属：ピラエラ、シオミドロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：グンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキビロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリニアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンブクロ属：コモンブクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウイキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモク属：ヤバネモク、ラッパモク属：ラッパモク、ジョロモク属：ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダワラ属：タマナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マ

メタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレモク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク属：スギモク、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリなど）。

【0056】紅藻類（ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属：アサクサンリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属：ミルノベニ、アケボノモズク属：アケボノモズク、コナハダ属：ハイコナハダ、ヨゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属：ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属：ベニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属：カサマツ、フサノリ属：フサノリ、ニセフサノリ属：ニセフサノリ、ソデガラミ属：ソデガラミ、ガラガラ属：ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属：ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属：タマイタダキ、カギケノリ属：カギノリ、カギケノリ、テングサ属：ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブグサ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属：ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属：イソムメモドキ、ミチガエソウ属：ミチガエソウ、リュウモンソウ属：リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属：ニセカレキグサ、オキツバラ属：オオバオキツバラ、アカバ属：アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属：ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、イソノハナ属：ヌラクサ、クロヌラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、カクレイト属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバネ属：ナガオバネ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレキグサ属：カレキグサ、トサカモドキ属：ホソバノトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシントサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスキヌ、ニクホウノオ属：ニクホウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラグサ属：ヤマダグサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカリ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイ

バラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジグサ属：ハスジグサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノリ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソウ、アカバギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラグサ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバグサ属：ウエバグサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フシツナギ属：フシツナギ、ヒメフシツナギ、ヒロハフシツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミジ、コノハノリ科：ハブタエノリ、コノハノリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギヌ属：ハスジギヌ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギヌ属：スジギヌ、アツバスジギヌ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギヌ属：アヤギヌ、ダジア属：エナシダジア、シマダジア属：イソハギ、シマダジア、ダジモドキ属：ダジモモドキ、イトグサ属：モロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネグサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグ属：キクヒオドシ、ヒオドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメグサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトグサ属：チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チスジノリなど）。

【0057】車軸藻類（シャジクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラスコモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属など）、黄色藻類（ヒカリモ属：ヒカリモなど）な

ど。

【0058】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛又は人の胎盤抽出物、豚又は牛の胃や十二指腸或いは腸の抽出物若しくはその分解物、豚又は牛の脾臓の抽出物若しくはその分解物、豚又は牛の脳組織の抽出物、水溶性コラーゲン、アシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解物(グロビンペプチド)、豚又は牛ヘモグロビン分解物(ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等)、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物など。

【0059】(14)微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、米発酵エキス、米糠発酵エキス、ユーグレナ抽出物、生乳又は脱脂粉乳の乳酸発酵物やトレハロース又はその誘導体など。

【0060】(15) α -ヒドロキシ酸類

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸など。

【0061】(16)無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラミンなど。

【0062】(17)紫外線吸収／遮断剤

ベンゾフェノン誘導体(2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-7-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-1-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノンなど)、p-アミノ安息香酸誘導体(パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチルなど)、メトキシ桂皮酸誘導体(パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリルなど)、サリチル酸誘導体(サリチル酸オクチル、サリチルフェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリス

チル、サリチル酸メチルなど)、アントラニル酸誘導体(アントラニル酸メチルなど)、ウロカニン酸誘導体(ウロカニン酸、ウロカニン酸エチルなど)、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ベンゾレソルシノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリンなど。

【0063】(18)美白剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体(ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシドなど)、ビタミンE又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、胎盤エキス、エラグ酸、ルシノールなど。

【0064】(19)チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC酸又はその誘導体(ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシドなど)、ハイドロキノン又はその誘導体(ハイドロキノンベンジルエーテルなど)、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラグ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス(カミツレ、クワ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、続隨子、射干、麻黄、センキュウ、ドッカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙葉)など。

【0065】(20)メラニン色素還元／分解物質

フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体(ハイドロキノンベンジルエーテル)など。

【0066】(21)ターンオーバーの促進作用／細胞賦活

物質

ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、靈芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス(アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、パセリ)など。

【0067】(22)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、p-フェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸(カテキン化合物を含む)など。

【0068】(23)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼなど。

【0069】(24)抗酸化剤

ビタミンC酸又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドログアセテレン酸、ブチルヒドロキシトルエン(BHT)、ブチルヒドロキシアニソール(BHA)、ヒドロキシチロソール、パラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシポールなど。

【0070】(25)過酸化脂質生成抑制剤

β -カロチン、植物エキス(ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、セージ、ローズマリー、南天実、エイジツ、イチョウ、緑茶)など。

【0071】(26)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェンヒドラミン、d-カンフル、dl-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロルフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩、グリチルレチン酸又はその塩、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキスなど。

【0072】(27)抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロルヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミンT、サラシ粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、バラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硝酸塩、フェノール、クレゾール、p-クロロフェノール、p-クロロ-m-キシリソール、p-クロロ-m-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、o-フェニルフェノール、イルガサンCH3565、ハロカルバン、ヘキサク

ロロフェン、クロロヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、フェノキシエタノール、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤(ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンノルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテルなど)、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤(ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンカリウムなど)、カチオン界面活性剤(臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン)、ホルムアルdehyド、ヘキサミン、ブリリアントグリーン、マラカイトグリーン、クリスタルバイオレット、ジャーマル、感光素101号、感光素201号、感光素401号、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジンなど。

【0073】(28)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸又はその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニシキエキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキスなど。

【0074】(29)エラスター活性阻害剤

フロオロリン酸ジイソプロピル、植物エキス(オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ケイヒ、ゲンノショウコ、コンフリー、セージ、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボタンピ)、海藻エキスなど。

【0075】(30)頭髪用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジンクピリチオン、ビフェナミン、チアントール、カストリチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸など。

【0076】(31)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン(エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオールなど)、イソフラボン、オキセンドロンなど。

【0077】(32)末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、ニンニクエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルブロニウム、ミノキシジルなど。

【0078】(33)局所刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、l-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジルなど。

【0079】(34)代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、ベン

タデカン酸グリセリドなど。

【0080】(35)抗脂漏剤

ピリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6など。

【0081】(36)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸など。

【0082】(37)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム塩化ナトリウム過酸化水素付加体、 β -チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液など。

【0083】(38)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウムなどの無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類（チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウム）など。

【0084】(39)毛髪潤滑剤

エタノールアミン、尿素、グアニジンなど。

【0085】(40)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミノジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノン、2,6-ジアミノピリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレン

ジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノン、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテインなど。

【0086】(41)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーグリスなどの天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カナンガ精油、カラウェー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイババルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーブラス精油、杉精油、スペアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬緑精油、トルーバルサム精油、バチュー精油、バラ精油、パルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、白檀精油、ブチグレン精油、ペイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油などの植物性香料、その他合成香料など。

【0087】(42)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫やマイモ色素、ラック色素、ルチンなど。

【0088】その他、保湿剤、ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイオ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、消炎剤・抗アレルギー剤、細胞賦活剤、角質溶解剤、創傷治療剤、増泡剤、増粘剤、口腔用剤、消臭・脱臭剤、苦味料、調味料、酵素などが上げられ、これらとの併用によって、相加的及び相乘的な各種の効果が期待できる。

【0089】又、本発明の養毛・育毛剤の剤型は任意であり、カプセル、粉末、顆粒、固体、液体、ゲル、気泡、乳液、クリーム、軟膏、シートなどの形態で配合して用いることができる。

【0090】具体的には、例えば、外用薬用製剤、クリーム、ローション、オイルなどの化粧料、シャンプー、

リンス、ヘアトリートメント、ヘアクリーム、ポマード、ヘアスプレー、整髪料、パーマ剤、ヘアトニック、染毛料、育毛・養毛料などの洗髪及び頭髪用化粧料、その他、一般的な飲食品類への使用も可能である。

【0091】尚、本発明の養毛・育毛剤への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中で添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0092】

【実施例】以下に、製造例、試験例、処方例を上げて説明するが、本発明がこれらに制約されるものではない。

【0093】(製造例1) ウヤク、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの各植物をそれぞれ100gを精製水(約80°C)にて約5時間加温抽出し、沪過して抽出液(乾燥固体分:約0.08~3.0重量%)を約1.0kg得る。

【0094】(製造例2) ウヤク、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの各植物をそれぞれ100gを50%エタノール溶液に浸漬し、室温にて5昼夜抽出した後、沪過して抽出液(乾燥固体分:約0.1~3.0重量%)を約1.0kg得る。

【0095】(製造例3) ウヤク、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの各植物をそれぞれ100gを70%エタノール溶液又は30%1,3-ブチレングリコール溶液、又は60%プロピレングリコール溶液、又は精製水(約30°C)に浸漬し、室温にて5昼夜抽出した後、沪過して抽出液(乾燥固体分:約0.1~3.0重量%)を約1.0kg得る。

【0096】(試験1) C3Hマウス発毛促進試験
動物背部約8cm²を電気バリカン及び電気シェーバーにて除毛した。次に除毛した背部に試料を1日1回、約0.2mlを週5日、20日間、塗布を行った。判定は塗布後12日目及び20日目を画像解析装置にて、除毛した面積に対する毛の再生が認められた面積率(%)を計測し、対照群と比較した。尚、結果を図1~3に示した。「小川らの試験方法(, Vol.17, No.5, P.20-29(1989) 参照」

【0097】(試験方法)

a. 試料

本発明の製造例2で得られたウヤク抽出液を原液のままを用い、又、ウヤク抽出液とその他植物抽出物との混合は等量混和して使用した。対照として基剤の50%エタノ

ール水溶液のみを用いた。尚、陽性対照としてミノキシジルを50%エタノール水溶液に0.5%(w/v)溶解したものと、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビの各植物抽出液(原液)を使用した。

b. 実験動物

8週齢の雄性C3Hマウスを使用した。これらの動物は室温22±2°C、湿度50±15%、オールフレッシュ換気15回/時、照明9時間/日の環境下で飼育した。動物は固型飼料MF(オリエンタル酵母工業)及び水道水を自由摂取させた。

【0098】(試験結果) 図1及び2の通り、本発明のウヤク抽出物は、毛の再生が有意に認められた。又、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンビから選ばれる1種以上の植物抽出物を併用したものについても、毛の再生が有意に認められた。尚、ミノキシジル又は各種植物エキス単独と比べても、ほぼ同等又はそれ以上の毛の再生が認められ、育毛剤、養毛剤として使用できる。

【0099】(試験2) 安全性試験

(1) 皮膚一次刺激性試験

製造例1~3で得られた各種植物抽出物を乾燥固体分濃度が0.5%となるように精製水にて調製し、背部を剃毛した日本白色家兎(雌性、1群3匹、体重2.3kg前後)の皮膚に適用した。適用の24、48、72時間後にドレイズの判定基準に基づき紅斑及び浮腫を指標として評価を行った。その結果は、全ての動物において、何等、紅斑及び浮腫を認めず、皮膚一次刺激性に関して問題がないものと判断した。

【0100】(試験3) 安全性試験

(2) 皮膚累積刺激性試験

製造例1~3で得られた各種植物抽出物を乾燥固体分濃度が0.5%となるように精製水にて調製し、背部を剃毛したハートレー系モルモット(雌性、1群3匹、体重320g前後)の皮膚に1日1回、週5回、0.5mL/匹を塗布した。塗布は2週に渡って行い、剃毛は各週の最終塗布日に行なった。各塗布日及び最終塗布日の翌日にドレイズの判定基準に基づき紅斑及び浮腫を指標として評価を行った。その結果は、全ての動物において、2週間に渡って何等、紅斑及び浮腫を認めず、皮膚累積刺激性に関しては問題がないものと判断した。

【0101】(試験4) 安全性試験

(3) 単回投与毒性試験

製造例1~3で得られた各種植物抽出物を12.5%濃度になるよう精製水にて調整し、一匹につき16mL/kg量を、

試験前、4時間絶食させたddy系マウス（雄性及び雌性、1群5匹、5週齢）に経口投与し、毒性症状の発現、程度などを経時的に観察した。その結果、全てのマウスにおいて14日間、何等異常を認めず、解剖の結果も異常がなかった。よって、LD50は2,000mg/kg以上であり、安全な物質と判断した。

(处方例1) ヘアトニック

	重量%
1. エタノール	40.0
2. オレイン酸エチル	1.0
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4. A : ウヤク50%エタノール抽出液	
B : アロエベラ50%エタノール抽出液	
C : エンメイソウ50%エタノール抽出液	
D : オウゴン50%エタノール抽出液	
E : オタネニンジン50%エタノール抽出液	
F : オトギリソウ50%エタノール抽出液	
G : コウボク50%エタノール抽出液	
H : コンフリー50%エタノール抽出液	
I : サクラ50%エタノール抽出液	
J : サルビア50%エタノール抽出液	
K : シソ50%エタノール抽出液	
J : シャクヤク50%エタノール抽出液	
L : ステビア50%エタノール抽出液	
M : センブリ50%エタノール抽出液	
N : ハンゲ50%エタノール抽出液	
O : ヒオウギ50%エタノール抽出液	
P : ブクリョウ50%エタノール抽出液	
Q : ボダイジュ50%エタノール抽出液	
R : ボダンピ50%エタノール抽出液	
※A抽出液	5.0
※B～Rの何れか1種の抽出液	5.0
5. 防腐剤	適量
6. 精製水	100とする残余

【0104】

(处方例13) シャンプー

	重量%
1. ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0
2. ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3. 1,3-ブチレングリコール	4.0
4. ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5. エデト酸二ナトリウム	0.1
6. ウヤク50%エタノール抽出液	10.0
7. コンフリー50%エタノール抽出液	10.0
8. サクラ50%エタノール抽出液	10.0
9. ローズマリー30%エタノール抽出液	1.0
10. コラーゲン加水分解物	1.0
11. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
12. pH調整剤	適量
13. 香料(チンピ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0105】

(处方例14) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. ウヤク50%エタノール抽出液	1.0
6. ハンゲ50%エタノール抽出液	1.0
7. シャクヤク50%エタノール抽出液	1.0
8. トレハロース溶液	1.0
9. 加水分解シルク溶液	1.0
10. 抗菌・防腐剤(塩化ベンザルコニウム)	適量
11. 香料(カミツレ水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0106】

(处方例15) ヘアーリキッド

	重量%
1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4. トリエタノールアミン	1.0
5. ウヤク熱水抽出液	1.0
6. コウボク50%熱水抽出液	1.0
7. ヒオウギ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
8. 塩化カルプロニウム	0.3
9. ヒノキチオール	0.5
10. ケラチン分解溶液	1.0
11. 抗菌・防腐剤(パラベン、塩化ベンザルコニウム)	適量
12. 香料(リンゴ水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0107】

(处方例16) ヘアートニック

	重量%
1. エタノール	40.0
2. オレイン酸エチル	1.0
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4. ウヤク50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
5. ステビア抽出液 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1)	1.0
6. ブクリョウ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
7. ニコチン酸ベンジルエステル	0.5
8. ヒアルロン酸ナトリウム溶液	1.0
9. カルボキシメチルキチン溶液	1.0
10. ホエイ溶液	1.0
11. ビタミンB6液	1.0
12. ムコ多糖体溶液	1.0
13. ハッカ油	0.1
14. 抗菌・防腐剤(パラベン)	0.1
15. 香料(ローズ水)	適量

16. 精製水

100とする残余

【0108】

(处方例17) 育毛・養毛剤

	重量%
1. エタノール	60.0
2. ウヤク50%プロピレングリコール抽出液	5.0
3. ボダイジュ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
4. ボダンピ70%プロピレングリコール抽出液	2.0
5. ビタミンE誘導体	0.5
6. トウガラシチンキ	0.5
7. レゾルシン	0.5
8. グリチルリチン酸	0.5
9. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5
10. 牛ヘマチン液	0.5
11. チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
12. シラカバ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
13. アミノ酸(グリシン、グルタミンなど)	0.5
14. 抗菌・防腐剤(パラベン)	0.1
15. 香料(ローズマリ)	適量
16. 精製水	100とする残余

【0109】

(处方例18) 育毛・養毛剤

	重量%
1. エタノール	60.0
2. ウヤク50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
3. コウボク50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
4. サクラ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
5. カンタリスチンキ	0.5
6. パントテン酸誘導体	0.5
7. レゾルシン	0.5
8. グリチルリチン酸	0.5
9. サリチル酸	0.5
10. ヒドロキシエチルキトサン溶液	0.5
11. エラスチン加水分解液	0.5
12. レンゲソウ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
13. 大豆50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
14. エラスチン加水分解液	0.5
15. 抗菌・防腐剤(パラベン)	0.1
16. 香料(ラベンダー)	適量
17. 精製水	100とする残余

【0110】(試験5) 使用効果試験

本発明の養毛・育毛剤を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは薄毛症、脱毛症を訴える10名(25~50歳)のパネラーとし、毎日、朝と夜(夜は洗髪後)の計2回、頭皮や髪の生え際に、処方例1のヘアートニックを1回当たり適量(約5ml)、頭皮に3ヶ月間に渡って塗布することにより使用テストを実施した。対照には、ヘアートニックに本発明の各種植物抽出物を一種だけ配合したもの(ウヤク抽出液は除く)、又、本発明の各種植物抽出物を除いたものを同様

な方法にて処方したもの用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表1~4の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に頭皮・毛髪の異常を訴えた者はなかった。

【0111】「養毛・育毛効果」

有効：うぶ毛が非常に多く生じた。

やや有効：うぶ毛が若干生じた。

無効：使用前と変化なし。

【0112】「毛髪感触改善効果」

有効：毛髪のツヤ・張り・滑らかさが増し、くし通

りが非常に良くなつた。

やや有効：毛髪のツヤ・張り・滑らかさがやや増し、く
し通りが若干良くなつた。

無効：使用前と変化なし。

【0113】

(表1)

養毛・育毛効果			
試料	有効	やや有効	無効
ウヤク抽出物(本発明品)	2	5	3
アロエベラ抽出物	0	4	6
エンメイソウ抽出物	0	6	4
オウゴン抽出物	0	6	4
オタネニンジン抽出物	1	6	3
オトギリソウ抽出物	0	4	6
コウボク抽出物	1	5	4
コンフリー抽出物	1	6	3
サクラ抽出物	0	4	6
サルビア抽出物	0	5	5
シソ抽出物	0	5	5
シャクヤク抽出物	0	4	6
ステビア抽出物	0	4	6
センブリ抽出物	1	6	3
ハンゲ抽出物	1	6	3
ブクリョウ抽出物	0	4	6
ヒオウギ抽出物	0	4	6
ボダイジュ抽出物	0	5	5
ボタンビ抽出物	1	6	3
対照品	0	1	9

【0114】

(表2)

生姜・育毛効果				
試 料	有 効	やや有効	無 効	
ウヤク 抽出物	+アロエベラ抽出物	2	7	1
	+エンメイソウ抽出物	4	5	1
	+オウゴン抽出物	3	6	1
	+オタネニンジン抽出物	4	4	2
	+オトギリソウ抽出物	2	6	2
	+コウボク抽出物	4	5	1
	+コンフリー抽出物	3	7	0
	+サクラ抽出物	1	8	1
	+サルビア抽出物	3	6	1
	+シソ抽出物	1	7	2
	+シャクヤク抽出物	2	7	1
	+ステビア抽出物	1	7	2
	+センブリ抽出物	3	7	0
	+ハング抽出物	4	6	0
	+ブクリョウ抽出物	2	7	1
	+ヒオウギ抽出物	2	6	2
	+ボダイジュ抽出物	2	6	2
	+ボタンビ抽出物	4	6	0
対 照 品	1	6	3	

【0115】

(表3)

毛髪感触改善効果			
試 料	有 効	やや有効	無 効
ウヤク抽出物（本発明品）	0	2	8
アロエベラ抽出物	0	4	6
エンメイソウ抽出物	0	2	8
オウゴン抽出物	0	2	8
オタネニンジン抽出物	0	3	7
オトギリソウ抽出物	0	2	8
コウボク抽出物	0	1	9
コンフリー抽出物	0	3	7
サクラ抽出物	0	1	9
サルビア抽出物	0	2	8
シソ抽出物	0	1	9
シャクヤク抽出物	0	1	9
ステビア抽出物	0	2	8
センブリ抽出物	0	2	8
ハンゲ抽出物	0	3	7
ブクリョウ抽出物	0	2	8
ヒオウギ抽出物	0	2	8
ボダイジュ抽出物	0	2	8
ボダンピ抽出物	0	2	8
対 照 品	0	0	10

〈表4〉

毛髪感触改善効果				
試 料		有 効	やや有効	無 効
ウヤク 抽出物	+アロエベラ抽出物	1	7	2
	+エンメイソウ抽出物	2	5	3
	+オウゴン抽出物	2	6	2
	+オタネニンジン抽出物	0	7	3
	+オトギリソウ抽出物	0	8	2
	+コウボク抽出物	2	6	2
	+コンフリー抽出物	1	8	1
	+サクラ抽出物	0	7	3
	+サルビア抽出物	0	7	3
	+シソ抽出物	0	7	3
	+シャクヤク抽出物	0	8	2
	+ステビア抽出物	1	6	3
	+センブリ抽出物	0	9	1
	+ハング抽出物	2	8	0
	+ブクリョウ抽出物	0	8	2
	+ヒオウギ抽出物	0	7	3
	+ボダイジュ抽出物	1	8	1
	+ボタンピ抽出物	2	8	0
対 照 品		0	0	10

【0117】(試験結果) 表1及び表2の通り、本発明のウヤク抽出物、又は、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハング、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1

種以上の植物抽出物を併用したものは、有意にうぶ毛を生じた人が多く認められ、又、単独の各種植物エキス配合品と比べても、発毛・育毛効果が確認された。

【0118】(試験結果) 表3及び表4の通り、本発明のウヤク抽出物、又は、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギ

リソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を併用したものは、毛髪のツヤ・張り・滑らかさを与え、くし通りも良くなり、毛髪感触改善が認められた。又、単独の各種植物エキス配合品と比べても、毛髪感触改善効果が強いことも確認された。

【0119】

【発明の効果】本発明のウヤク抽出物、又は、ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を併用した養毛・育毛剤は、優れた発毛・育毛効果を有し、又、毛髪にツヤ・張り・滑らかさを与え、くし通りも良くなり、人

又は動物に対しても安全である。尚、その他、一般的な飲食品類への使用も可能である。

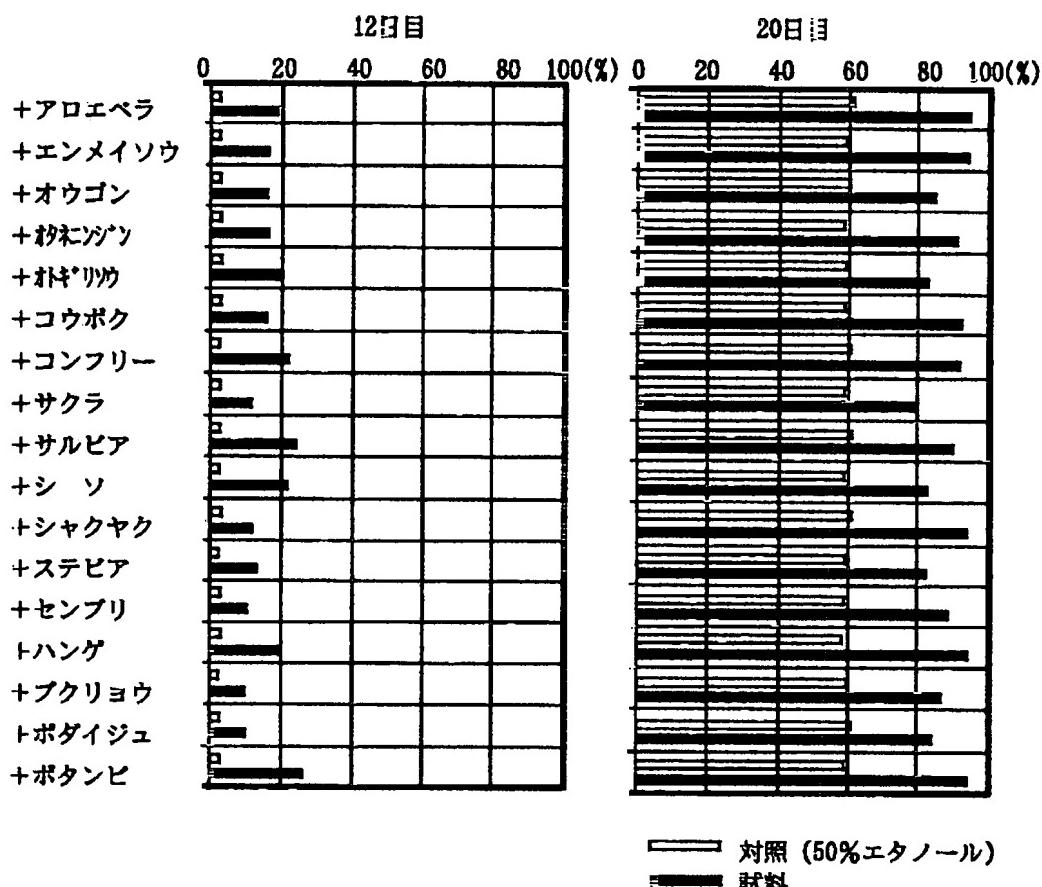
【図面の簡単な説明】

【図1】ウヤク、アロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピの各種植物抽出物及びモノキシジルの再生毛髪面積率を示す図である。

【図2】ウヤク抽出物と共にアロエベラ、エンメイソウ、オウゴン、オタネニンジン、オトギリソウ、コウボク、コンフリー、サクラ、サルビア、シソ、シャクヤク、ステビア、センブリ、ハンゲ、ヒオウギ、ブクリョウ、ボダイジュ、ボタンピの各種植物抽出物を1種以上含有した時の再生毛髪面積率を示す図である。

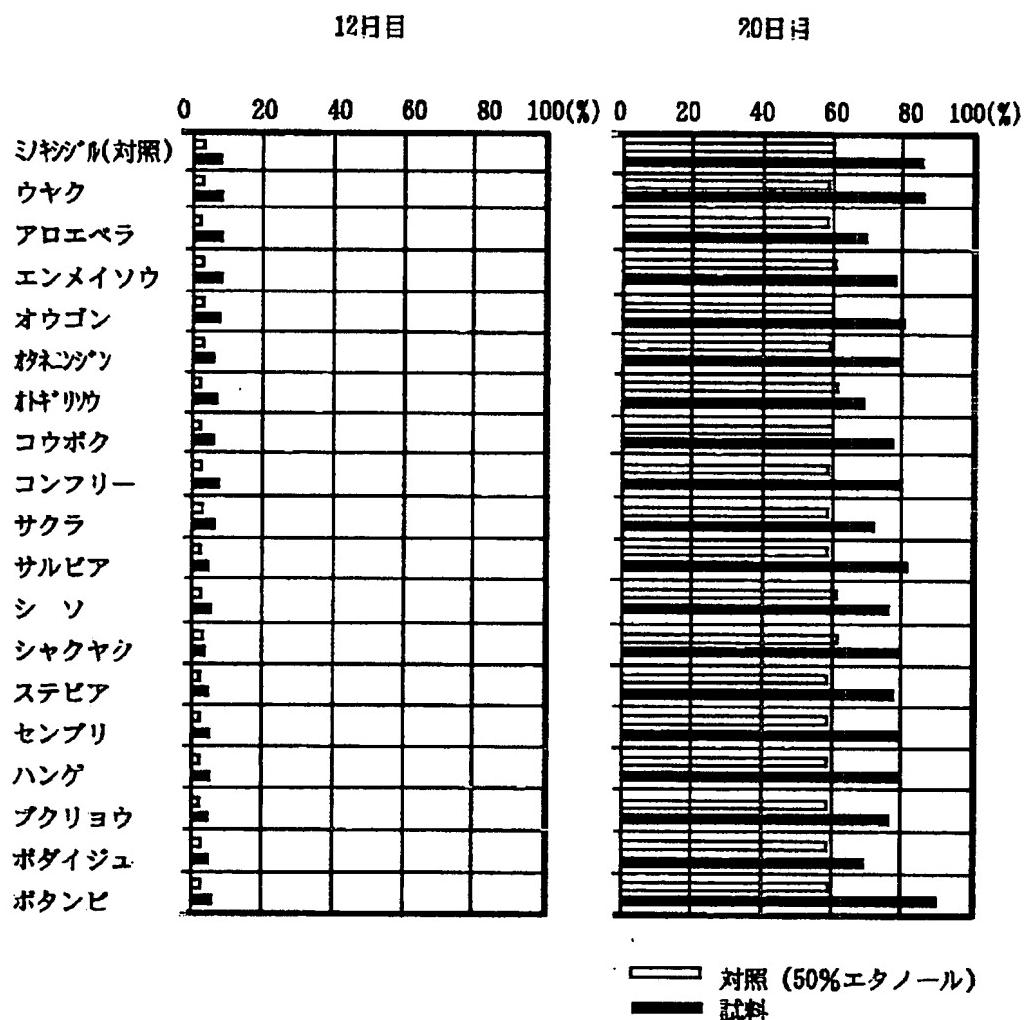
【図2】

再生毛髪面積率
(ウヤクエキス+その他植物エキス)



【図1】

再生毛髪面積率
(各植物エキス単独)



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7
A 61 K 35/78

識別記号

F I
A 61 K 35/78

(参考)

T
V
W
A35/84
A 61 P 17/1435/84
A 61 P 17/14

F ターム(参考) 4C083 AA072 AA111 AA112 AA122
AC072 AC102 AC122 AC182
AC312 AC352 AC432 AC472
AC532 AC542 AC582 AC642
AC692 AC782 AC842 AC852
AC902 AD202 AD312 AD322
AD332 AD412 AD432 AD442
AD452 AD532 AD632 AD662
CC32 CC33 CC37 CC38 CC39
DD23 EE06 EE22
4C088 AA04 AB12 AB18 AB26 AB33
AB38 AB52 AB58 AB65 AB67
AB72 AB80 AB86 AC01 AC02
AC03 AC04 AC05 AC06 AC11
AC13 AC16 BA08 MA07 MA63
ZA92